

令和5年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 最終)

呉市立東畑中学校区 校番 中11 学校名 呉市立東畑中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを明確にして、そのテーマに基づいた目標が設定されています。指標についても細かく分かれていますが、1つ1つ分かりやすく良いと思います。 ・達成値がほとんどの項目でA～Bであるので指標設定が適切であると感ずる。 ・基本的生活習慣について、小学校から継続的に取り組んでいるが評価が低いのは家庭環境が影響しているのだろうか。自分の良さをまわりの人に認められているか、といっても自分では分かりにくいと思います。 ・「学力の向上を図る」という中期の目標において、個を大切に「考える授業づくり」を推進するという目標は非常に適切だと考える。暗記よりも自分の頭で考えたことの方が真の実力に結びつくことを実感することが多く、逞しい子どもたちが育つと思われる。
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組む方法がはっきりしています。やりたいことを明確にすることで、達成に近づけると思います。 ・方策が目標につながっていくのだと納得した。 ・ICT教材の活用は、すぐに答えを求めようというの理解はできますが、昔のように辞書等を活用するのも必要かと思ひます。先般テレビで、スマホ等の利用により前頭葉の働きが弱くなっている。記憶に残っていない。と言われていた。 ・タブレット端末が授業で活用されてきているが、ネットで調べてわかったような【気持ちになるが、本当の理解は体験することが不可欠である。生活習慣の定着と体力の向上においてメディアコントロールが指導の方策に挙げられているのは適切である。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1つ1つの目標について、結果を分析できていると思ひます。数値化をすることにより分かりやすくなり、良いところと悪いところが把握できるようになり、次につながると思ひます。 ・子どもと先生との間に微妙なずれがある。主体的に学校生活を送っている生徒は、学校や先生の思いが通じやすいが、そうでない生徒にどう伝えていくのか、難しさを感じる。 ・生徒、保護者、教職員のアンケート結果に若干のズレがあるように思ひます。感じ方、受け取り方が違つうのでしょうか。 ・自尊感情、自己有用感を高める目標において、自己評価が低い結果となっているのが残念。新型コロナの影響で生徒同士のコミュニケーションにも影響が出たと感じられる。
今後の改善策(案)の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・結果をしっかり受け止め、未達成部分を理解することにより、改善策が立てられています。評価をAにするために厳しい部分もありますが、改善策に意気込みを感じます。 ・改善策が具体的に書かれている。今後の課題が提起してあり、どのように改善していくのかが分かりやすい。全体的に子どもが楽しんでやる機会が減ってきているのかと感ずる。 ・個を大切に。得意分野をみんなが認めれば自分に自信がつくのではないのでしょうか。活字離れが進んでいる中、本を読んでいろんな考え方があることを学んでほしい。問題を読み解く力が必要だと感ずる。 ・先生たちが子どもたちの行動に目を向けていただけことが伺え、うれしく思えた。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定から、活動、データ分析、結果の集計までお疲れ様でした。ありがとうございました。長時間の勤務が気になります。体調面が心配です。我々も協力していく必要があると感じました。 ・先生方の長時間勤務の削減がなかなか進まないのことはPTAとしてもできることをやっていく必要がある。学校のため、子どものためというの、ありがたいことではあるが、削減のための検討が必要である。「自分の良さがまわりから認められている」と思ふ生徒が少ないのは正直悲しいが、「生徒と向き合う時間がとれている」と思ふ先生が100%なのは感謝につくる。 ・地域、家庭、学校教育について、三位一体となって取り組む必要があると思ひます。とはいえ、今の社会情勢の中で大切なことは家庭教育だと思ふ、あいさつ、人への思いやり等、基本的なことを各家庭で学ぶことができればいいですね。 ・相変わらず先生たちへの負担が軽減できていない状況がうかがえる。対策が必要。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分らない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTについては、それを使うことが目的ではなく、効果的な活用が大事であるので、校内研修で、各教科で行っている授業での活用方法を交流していく。また、ICT担当者を軸として、先進的な学校との連携を図り、効果的な活用を広げていく。 ・「書くこと」や紙媒体での情報収集などを大事にした指導を行っていく。 ・生徒の自己肯定感については、教師による評価だけでなく、生徒同士の中で認められるような場の設定が必要である。各教科や学校行事などで、生徒同士が肯定的に評価できる場を設定していく。 ・「考える授業づくり」については、「単元を貫く問い」を設定していくことで生徒の主体性を高めたり、発問の工夫により、深く考える授業を進めていく。また、生徒に発表の機会を与えることも大事であるが、生徒一人一人の考えを肯定的に受け入れる集団にしていく必要がある。 ・教職員の時間外勤務を削減していくために、外部の人材の活用など、対策を講じていく。
--------------------	---